

第6章 都市形成戦略

西九州自動車道の開通を好機と捉え、本市がこれからどのような取り組みを進めていくべきか、前章までの上位計画における位置付けや課題整理を踏まえ、将来像及び基本戦略を設定します。

6-1 将来像の設定

西九州自動車道の開通を契機とした都市形成戦略は、広域交通体系の劇的な変化による外からの流れを市内に呼び込むと同時に、市内の資源を外へ売り込む仕掛けづくりが必要となることから、産業振興および観光振興に重点的に取り組むこととします。

但し、その根底には、住んでいる人自らが安心して快適に暮らせるまちであることが必要であり、その上で市民生活・暮らしの中でこの広域交通体系の整備による恩恵を享受でき、市民はもちろんのこと、他都市住民からも**選ばれるまちづくり**を進めることが重要です。

以上を踏まえ、本都市形成戦略の基本理念は、第5次伊万里市総合計画の将来都市像である「**活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里**」の実現とし、交通体系の変化を見据えた本戦略における将来像として以下の3つを掲げ、今後の都市形成戦略を推進します。

活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里

- 競争力を備えた産業が育つまち 伊万里
- 西九州北部の観光拠点 伊万里
- 選ばれるまち 伊万里

< 3つの将来像の関係性 >

各将来像の関係性は、下図の通りです。

西九州自動車道開通を契機としたまちづくりにおいては、産業振興と観光振興が基本となるものの、その根底となる「生活・暮らしの場の充実」が何よりも重要です。生活・暮らしの場が充実している上で、農畜産業、窯業、商業などの「産業」がしっかりと育ち、それを展開・発展させる手段として「観光」施策を展開し、より産業が潤い、人々の生活・暮らしの場も豊かになるという流れを示しています。

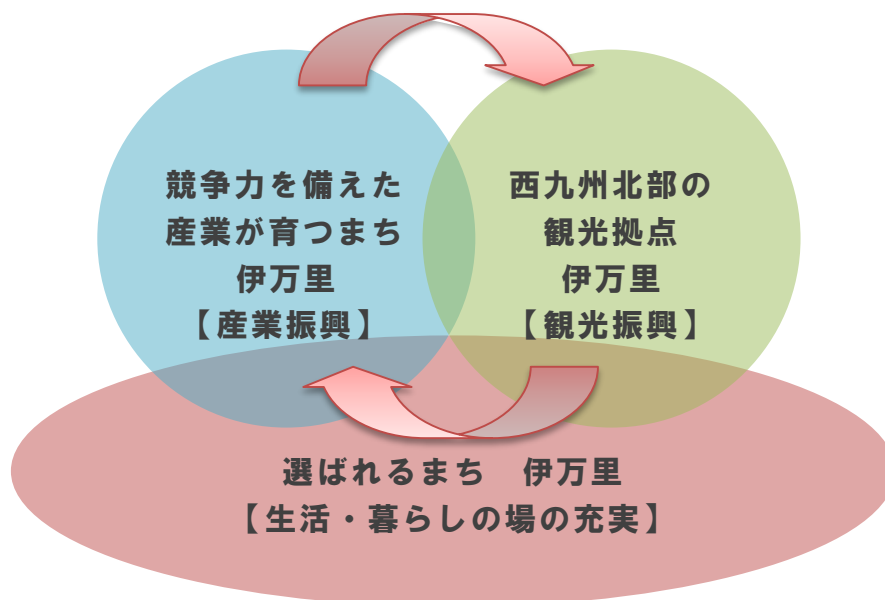


図 3つの将来像の関係性イメージ図

6-2 基本戦略の設定

将来像の実現に向けて、下記8つの基本戦略を設定し展開します。

<課題>

課題1 産業振興に関する課題

- 西九州自動車道の整備による地理的優位性を生かした地域連携による産業の活性化が必要
- 異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要

<将来像>

将来像1 (産業振興)【活気あふれるまち】

■競争力を備えた産業が育つまち 伊万里

農畜産・窯業の伊万里ブランドのさらなる強化、重要港湾伊万里港の活用などにより、地域産業の振興を展開します。

<基本戦略>

<戦略1> 基幹産業(農業・製造業)や地域産業(窯業・商業)の活性化

<戦略2> ゲートウェイ機能の強化促進

課題2 観光振興に関する課題

- 広域的な観光振興策の取り組みが必要
- 異業種連携によるALL伊万里での取り組みが必要
- IC 供用開始を的確に産業振興に結束させるネットワークの強化が必要
- 西九州自動車道整備の効果を地域に取り込むための仕掛けづくりが必要

将来像2 (観光振興)【行きたいまち】

■西九州北部の観光拠点 伊万里

西九州北部の各地域観光の周遊起点としての機能を備えた拠点の確立を図るとともに、わざわざ行きたくなる観光地となるよう、多様な取り組みを重層的に展開します。

<戦略3> ALL伊万里による観光戦略の展開

<戦略4> 広域連携による観光施策の展開

<戦略5> 観光拠点(玄関口)としての受入れ・情報発信の強化

課題3 生活・暮らしの場充実に関する課題

- 人口減少、高齢化が進む将来における持続可能な生活環境の形成が必要
- 西九州自動車道 IC の供用開始による都市構造の変化や開発機運の高まり等を見据えた将来の土地利用計画(都市計画)が必要
- 中心市街地の活性化とともに、周辺の既存集落や各拠点とのネットワークを強化することが必要(コンパクト+ネットワーク)

将来像3 (生活・暮らしの場充実)

【安心で住みたいまち】【子育てしやすいまち】

■選ばれるまち 伊万里

住民自身の生活が豊かになるまちづくり、市外への人口流出を抑え、市外からの人口流入を促す「選ばれるまち」となる施策を展開します。

<戦略6> 計画的なまちづくりの推進

<戦略7> 魅力的で訪れたくなる中心市街地の活性化

<戦略8> 中山間地域等の活力の維持向上を図る定住環境の形成

将来像 1（産業振興）【活気あふれるまち】

■競争力を備えた産業が育つまち 伊万里

基幹産業である農畜産業や地域産業である窯業・商業については、「伊万里ブランド」の育成・強化、生産性向上や販路拡大などの取り組みを進めるとともに、起業支援による新たな雇用環境の創出に取り組みます。

また、日本海側拠点港に位置付けられている伊万里港は、東アジア諸国の活力を引き込み、地域の新たな発展の機会を創出するための重要なゲートウェイ（玄関口）であることから、港湾機能の強化など地域経済発展に貢献する取り組みを関係機関へより一層働きかけていきます。

上記の取り組みにより、本市の持つ強みを相乗的に発揮させ、競争力を備えた産業が育つまちを目指します。

<戦略 1> 基幹産業（農業・製造業）や地域産業（窯業・商業）の活性化

伊万里中 I C（仮称）供用開始を契機に、基幹産業や地域産業の活性化を図るため、6次産業化や異業種連携等による伊万里ブランドの育成・強化、ICT を活用した産業振興、起業をはじめ新たな雇用創出に向けた取り組みの支援等を進めます。

1) 「伊万里ブランド」の育成・強化

伊万里梨、伊万里牛、伊万里焼などの「伊万里ブランド」の更なる魅力の増大を図るため、生産性向上に向けた支援や農産物直売所等による加工・販売等の6次産業化や流通、サービス業等の企業、団体等との異業種連携に取り組みます。

あわせて、福岡都市圏を中心に様々な媒体を活用したPR活動を継続的に実施することにより、「伊万里ブランド」の育成・強化を図ります。

【具体的取り組み】

- 農産物直売所の戦略的展開検討
- 6次産業化支援
- 新商品開発及び新規販路開拓（新商品販路開拓支援事業）
- 伊万里ブランドコラボ企画の展開（例「伊万里牛の重箱御膳」：伊万里牛と伊万里焼の「伊万里ブランド」を、飲食店と窯元が協働開発・展開）

■市内における先行的取り組み：土や水にこだわるねぎ名人の6次産業化

- ・ 中国等アジア地域から安価な生鮮品が輸入され、競争の激化による売上高減少への危機感が高まり、加工品の製造販売による付加価値向上を決意
- ・ 首都圏の見本市に出展した際に、ねぎ加工品の高い市場性を感じ、土や水にこだわって栽培したねぎを用いて、平成 21 年から乾燥ねぎ、ねぎスープ等の加工品の開発を実施
- ・ 売上げ、雇用者数の増加などの効果がでている

（出典：6次産業化の取組事例集 <http://www.maff.go.jp/j/shokusan/renkei/6jika/pdf/jireisyu.html>）



2) ICT技術の活用による産業振興

IC供用開始に伴う福岡都市圏等市場への流通環境向上を産業振興へと結びつけるため、ICT技術を活用したスマート農業の促進、生産・流通システムの高度化など、農業分野の生産性向上を図る取り組みを促進します。

【具体的取り組み】

- 生産管理分野へのICTの活用促進

3) 新たな雇用創出に向けた取り組み支援

基幹産業や地域産業の活性化とともに、IC供用開始を契機とした新たな雇用創出を図るため、首都圏企業のサテライトオフィスの誘致活動やPORTO3316 IMARIとの連携による起業活動への支援に取り組みます。

【具体的取り組み】

- PORTO 3316 IMARIとの連携による起業支援（働く場の創出）
- 公共施設を活用したリノベーション事業（伊万里市駅ビル、旧婦人文化会館等：シェアオフィス、ゲストハウスなど）

4) ロードサイド型賑わい機能の誘導

伊万里中IC（仮称）周辺については、広域的なアクセス利便性向上を地域活性化につなげていくためにも、中心市街地との役割分担のもと、官民連携による賑わい機能の誘導を検討します。

【具体的取り組み】

- 官民連携による賑わい機能の誘導検討

■市内における先行的取り組み:ICTを活用した新規ビジネス創造拠点

「PORTO 3316 IMARI」

- ・本市では、「都市と地方を結ぶ次世代人材育成によるクラウド型企業誘致事業」に取り組み中
- ・当事業は、地域の産業（農業や伝統産業等）や観光と最新のテクノロジー（ICT技術等）の融合による新たなビジネスの創造、更にはそれに伴う人材育成や都市部のIT企業との連携、誘致を目指すもの
- ・その拠点施設として、伊万里まちなか一番館の2階をリノベーションしてオープンさせた



(出典:PORTO 3316 IMARI HP https://peraichi.com/landing_pages/view/porto3316/)

＜戦略2＞ ゲートウェイ機能の強化促進(伊万里港の国際物流拠点)

1) 伊万里港の機能充実及び交通ネットワークの強化

国際競争力強化のため、伊万里港港湾計画に基づく整備や、アクセス道路となる都市計画道路二里黒川線の早期完成を関係機関へ働きかけ、輸送時間短縮による利便性向上や新規市場開拓を支援します。

【具体的取り組み】

- 伊万里港の国際物流ターミナル整備促進
- アクセス道路の整備による港湾利用の効率性、利便性の向上、農畜製品の輸送時間短縮による新規販路開拓への展開支援

2) 新規工業団地の整備による新たな雇用の場の創出

松浦地区や浦ノ崎地区における新たな工業団地の整備など、西九州自動車道や国道498号などの広域交通体系の充実にあわせた新たな雇用の場の創出を図ります。

【具体的取り組み】

- 松浦地区における新規工業団地整備の推進
- 浦ノ崎地区における工業団地開発促進(県)
- IC周辺における新規工業団地整備の検討

3) 伊万里港の利活用促進

伊万里港の利用を国内外の企業に積極的に働きかけるなど、官民協働による伊万里港の利用促進策を展開します。

【具体的取り組み】

- ターゲットを明確にした戦略的なポートセールスの展開
- 県との連携による利活用促進のための支援策の検討
- クルーズ船寄港検討

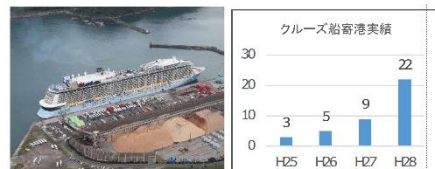
■他都市事例：油津港でのクルーズ船誘致の取り組み(宮崎県日南市)

○国、県、近隣自治体、民間事業者等との連携、市民参加のおもてなし

- ・クルーズ船寄港の経済効果をより効果的に波及させるため、国の出先機関や県、県南部の10市町、民間事業者などで宮崎県南部広域観光協議会を設立
- ・広域で連携して誘致し、広域物産展の開催や広域のかつ多彩な観光ルートの提案などを行い、地域の魅力を最大限に生かした受入を実施
- ・クルーズ船の寄港に合わせ、通訳ボランティアを配置するとともに、高校生による観光ガイドを実施

(出典：地方創生事例集(国土交通省))

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/souseikaigi/h28-12-14.html>

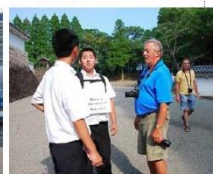


○クルーズ船の寄港状況

○寄港実績



○エアドームテントの活用



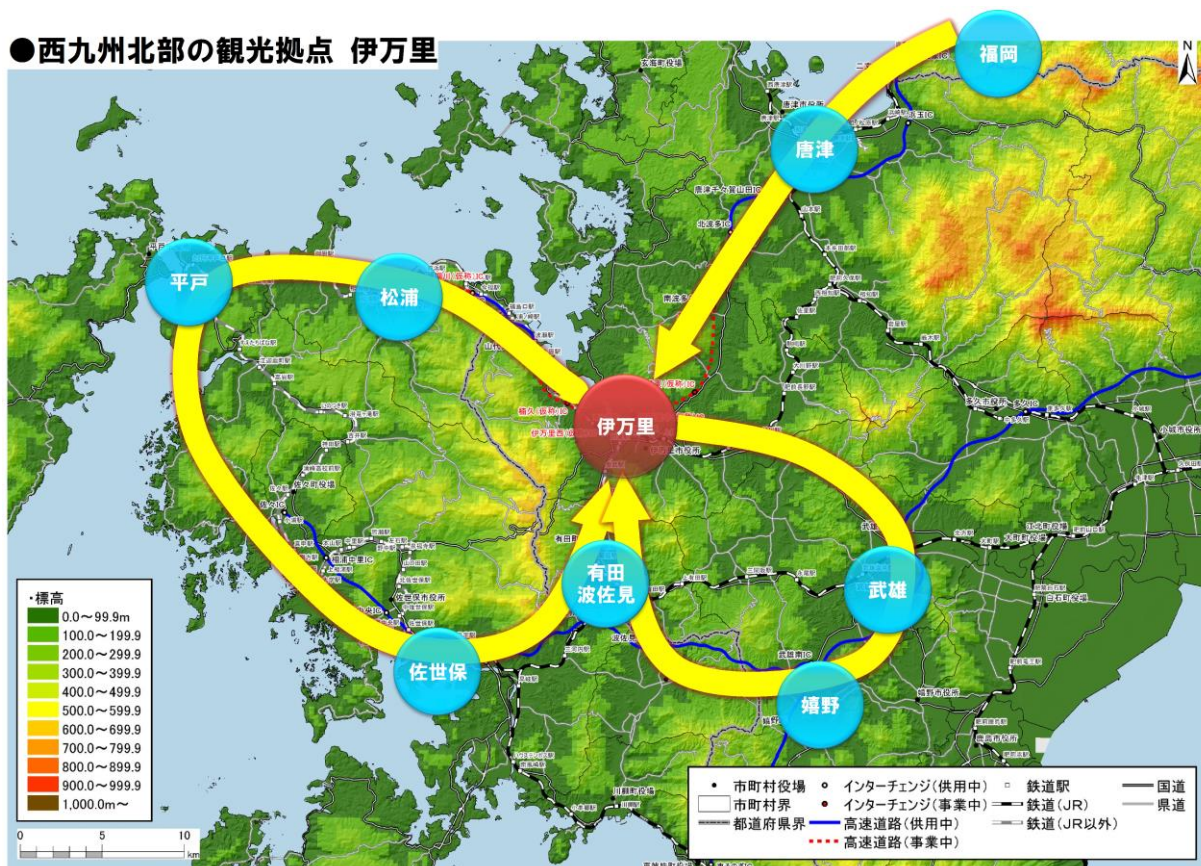
○地元高校生による英語での観光ガイド

将来像 2（観光振興）【行きたいまち】

■西九州北部の観光拠点 伊万里（わざわざ行きたくなるまち伊万里）

本市は、西九州自動車道の整備により、西九州北部観光の周遊起点として非常に優位な位置に存在します（西周りでは松浦市、平戸市、佐世保市、東周りでは武雄市、嬉野市、有田町、波佐見町）。この優位性を最大限に活用し、通過点ではなく観光の起点として「わざわざ行きたくなる観光地」となるよう、地域資源のレベルアップや宿泊施設の充実を含めたおもてなし体制づくり、広域連携の強化、時代に応じた情報発信手法の活用など、多様な取り組みを重層的に展開し、西九州北部の観光拠点としての確立を目指します。

●西九州北部の観光拠点 伊万里



<戦略3> ALL伊万里による観光戦略の展開

本市が有する豊かな食文化や自然環境、歴史・文化等の地域資源を磨き上げ、伊万里ブランドの強化を図るとともに、異業種連携や宿泊施設の充実を含めた受け入れ体制づくりなど、ALL伊万里による観光戦略を展開します。

1) 観光戦略づくり

観光地域まちづくりの展開に向け、広域的な観点、多様な分野との連携、新たな情報技術の活用など、様々な視点をふまえて観光戦略プランを見直します。

【具体的取り組み】

- 伊万里市観光戦略プランの見直し

2) 地域資源のレベルアップ

伊万里ブランドをはじめ、地域資源の研鑽により、より魅力的な観光資源となるよう整えます。また、既存のまつりの継承や新たなイベントの展開など、各々が主体となって育てていきます。

【具体的取り組み】

- 伊万里ブランドによる福岡都市圏等でのイメージ戦略継続展開
- 伝統文化の継承及び新たなイベントの企画展開
- 大川内山の景色の維持（大川内山活用計画の推進）
- 大川内山でのエリアリノベーション（古民家再生）

3) 異業種連携による取り組み展開

伊万里牛や伊万里焼など、単体で勝負するのではなく、「伊万里ブランド」として幅広い分野と連携して戦略的にブランド展開することで、域内滞在時間の延長や消費額の向上などの相乗効果を狙います。また、異業種間での企画検討の機会を継続的に設けるよう支援します。

【具体的取り組み】

- 体験型観光（食＋体験＋泊）、（地元食材＋地元出身料理人）＋ α
（例：畑の中のレストラン、民泊、DINING OUT in IMARI の開催など）
- 異業種座談会（仮称）の定期開催
- 耕作放棄地を活用した体験型農業、週末農家の展開⇒定住促進

4) 継続的なおもてなし体制づくり（ホスピタリティ強化）、広報戦略展開

観光産業従事者だけでなく、市民のおもてなし（挨拶、笑顔）も含めて総合的なおもてなし体制づくりを継続的に実施します。併せて、Wi-Fi 環境や多言語サイン導入など観光インフラ整備を進め、情報発信についても戦略的に展開します。

【具体的取り組み】

- 観光案内所のリニューアル
- ボランティアガイド（まちあるきガイド）、観光コンシェルジュの育成
- 伊万里未来プランナーの養成
- 観光インフラの整備拡充（サイン計画、Wi-Fi スポット→直ぐに SNS 発信）
- SNS や web を活用した広報戦略の展開
- インバウンド対策（多言語サイン計画、免税店登録奨励事業など）

<戦略4> 広域連携による観光施策の展開

観光施策の展開に向け、広域的な観光戦略の推進組織づくりを周辺自治体と連携して進めます。平成 28 年に肥前窯業に関する文化財が日本遺産に認定され、この歴史的、文化的魅力を伝える「肥前窯業圏」の取り組みを推進するとともに、ストーリー性の高い新たな広域観光周遊ルートの形成など、周辺自治体や民間事業者と一体となった広域連携による取り組みを進め、稼げる地域となることを目指します。

【具体的取り組み】

- 観光客受け入れ体制の再構築（観光関係団体の連携強化（日本版 DMO など新規団体等の創設））
- 肥前窯業圏の取り組み推進（活性化推進協議会との連携）
- 広域観光周遊ルートの形成（平戸市、松浦市との連携）
- 九州オルレ「伊万里コース」の整備
- 観光客誘致活動の効果的展開（民間旅行会社等との連携）

<戦略5> 観光拠点（玄関口）としての受入れ・情報発信の強化

本市中心部に最も近い場所開設される（仮称）伊万里中 IC 周辺を、本市及び広域観光の拠点（玄関口）として位置づけ、様々な情報等を入手できる場として展開します。

【具体的取り組み】

- 産地直売所、情報発信・収集機能などの整備検討（観光案内所の新規整備、市所蔵肥前陶磁器の展示など）
- 循環バスなど、公共交通事業者との連携
- 観光案内板の新規設置（伊万里東府招 IC、西九州自動車道沿線）

将来像3（生活・暮らしの場充実）【安心で住みたいまち】【子育てしやすいまち】

■選ばれるまち 伊万里

西九州自動車道の開通により移動の利便性が向上することから、人々の生活圏が拡大していくことが予想されます。産業振興や観光振興による本市の活力創出は重要ですが、本市に暮らす住民自身の生活が豊かになるまちづくりを進めることが最も重要です。中心市街地の再生、公共交通の充実、子育て環境の充実および地域コミュニティの維持などにより、市外への人口流出を抑え、市外からの人口流入を促す施策を展開し、様々な場面において「選ばれるまち」となることを目指します。

<戦略6> 計画的なまちづくりの推進

西九州自動車道や国道498号バイパスなどの広域交通網や補助幹線道路となる都市計画道路大坪木須線などの整備に伴い、本市の都市構造は大きく変化します。少子化、高齢化の進行が今後も予測されている中、これからも安心して住み続けられるよう将来を見据えたまちづくり計画を策定し、計画に基づいた具体的取り組みを進めていきます。

1) 将来を見据えた都市計画の検討

総合計画や総合戦略で掲げた将来都市像の実現に向けて、都市計画分野からどのように取り組んでいくか、将来のまちづくりの基本方針となる「伊万里市都市計画マスタープラン」を策定します。また、安心して住み続けられる地域づくりのため、公共施設等についての計画的な維持管理の実施、施設再配置計画の検討を進めます。

【具体的取り組み】

- 伊万里市都市計画マスタープランの策定
- 公共施設等総合管理計画に基づく計画的な維持管理の実施及び施設再配置計画の検討

2) 定住促進策、子育て支援策の検討

市外からの居住人口流入を促すため、移住体験ツアーの実施や奨励金等の助成金制度の拡充検討を進めます。あわせて、本市の子供たちが、ふるさとへの愛着や誇りを高め、将来において本市に戻ってくるような意識づけを働きかける取り組みも進めます。

【具体的取り組み】

- 移住体験ツアー・空き家ツアー（伊万里の生活体験・空き家の内覧など）
- 定住促進施策（助成金など）の拡充検討
- 子ども伊万里塾の開催
- 伊万里市インターンシップ実習（就業体験）

<戦略7> 魅力的で訪れたいくなる中心市街地の活性化

外から魅力的に映るまちは、「まちの顔」となる中心市街地が魅力的です。伊万里市民が日常において利用したくなるとともに、来訪者も訪れてみたいと感じる魅力ある中心市街地の活性化に向け、市民協働による取り組みを進めます。

【具体的取り組み】

- 中心市街地の活性化に向けたまちづくり構想（将来像）等の検討
- まちなかイベントの開催（市街地・商店街活性化イベント開催支援事業）
- 伊万里川河川敷地空間を活用した賑わいのあるまちづくり（ミズベリング）
- 空き家・空き店舗対策（リノベーションまちづくり（番館構想）、データベース構築など、官民協働による取り組み検討）
- ワンストップ行政窓口の設置

<戦略8> 中山間地域等の活力の維持と向上を図る定住環境の形成

本市には、伊万里中心部の他、周辺に複数の自治区域が形成されています。中心市街地の再生とともに、旧来から地域の中心として形成されてきた複数の自治区域についても安心して住み続けることができるよう、生活利便機能や都市機能等の一定の基礎条件を確保し、豊かな定住環境の形成を図ります。

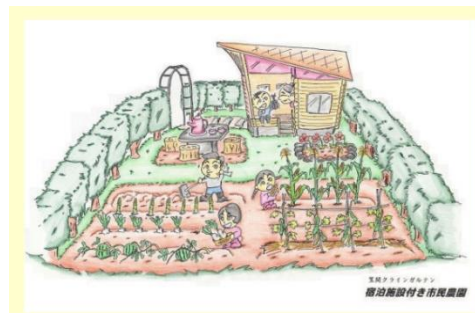
また、滞在型市民農園、農家レストラン、農家民泊、地域の伝統行事への参加、農村留学及び修学旅行受入れなど、福岡都市圏をはじめ都市部住民との交流機会を増やすことは、地域の魅力の再発見を促す機会や地域活力の維持・向上につながることから、そのような取り組みを推進します。

【具体的取り組み】

- 「小さな拠点」の形成（拠点形成、ネットワーク（交通）の確保）
- 伝統文化の継承（まつり）⇔地域コミュニティの維持
- 未利用農地等を活用した観光農園（クラインガルテン等）の推進
- 未利用公共施設の活用検討（宿泊施設、ドローン学校など）

■事例：滞在型市民農園による地域住民と都市住民の交流～笠間クラインガルテン～ （茨城県笠間市）

- ・ 就農者の減少・高齢化を背景に、地域資源をいかした特色あるサービスを都市住民に提供するとともに、地域の活性化を図る
- ・ 施設内に宿泊施設付市民農園と日帰り市民農園を整備



（出典：笠間クラインガルテン）<http://www.kasama-kg.jp/main/kkg.htm#syuku>

6-3 ゾーニング計画（将来都市構造）

前項までに設定したまちづくりの将来像の実現のために、将来都市構造を設定します。

1. 将来都市構造を考える上での留意点

(1) 高速交通体系との連携

西九州自動車道の市内 IC の供用開始に伴い、広域交通網の拡大による交流人口の拡大が期待されます。他方、福岡都市圏への流出が懸念されます。



高速交通体系の充実を見据え、中心市街地の再生、伊万里港の機能強化促進、観光施策との連携など、**他都市圏への流出抑制と通過点とならないまちづくりが必要**

(2) 市内ネットワーク機能の充実・強化

本市には、伊万里中心部の他、周辺に複数の自治区域が形成され、伊万里中心部を拠点とした生活圏が形成されています。しかしながら、モータリゼーションの進展やライフスタイルの変化等による生活圏の拡大、少子化高齢化の進行など、社会的環境が変化した結果、伊万里中心部の賑わいが低下しています。



中心部の賑わい再生、西九州自動車道の利用利便性向上のためにも、**周辺地域、中心部、西九州自動車道 IC を連絡するネットワーク機能の充実・強化が必要**

2. 都市構造の構成要素

前項で示した将来都市構造を考える上での留意点をもとに、都市の骨格を形成する道路・鉄道・山林・河川などを主体とした将来都市構造図を整理します。

(1) ゾーン

⇒それぞれの地域の特徴を明確にし、地域特性に応じたまちづくりを行っていくためにも、概ねの機能毎に区分した土地のまとまりを「ゾーン」として設定します。

市街化を進める区域や、自然と調和、一体化した居住環境等を確保する区域を中心に、5つのゾーンを設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
ゾーン	①市街地ゾーン <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市中心部の主に都市活動を行う区域に指定します。 ▶ 都市軸沿い・交差点を中心として、まとまりのある市街地の形成、都市の活性化に必要な都市機能の配置等を進め、快適便利な定住の場としての役割を担います。 	◆主に用途地域が指定されている区域
	②地域生活・環境共生ゾーン <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市街地周辺部に広がる平坦地や田園地帯、台地など、地域の都市活動を行う区域、田園・里山との共存を図る区域、農業生産の促進を図る区域に指定します。 ▶ 地域生活拠点を核として、地域内での生活に必要な都市機能の配置等を周辺の自然との調和に配慮して進め、快適でゆとりある居住の場としての役割を担います。また、優良農地についてはその保全に努め、農業生産地としての役割を担います。 	◆山代、東山代、二里、黒川、波多津、南波多、大川、松浦、大川内、大坪、立花、牧島の各地域生活拠点周辺 ◆郊外部の優良農地一帯や河川沿いの平坦地、漁村集落など
	③自然環境ゾーン（海） <ul style="list-style-type: none"> ▶ 沿岸地域の保全等を目的とした区域に指定します。 ▶ 玄海国定公園に指定された美しい沿岸景観であり、保全を図るとともに、市民および観光客の癒しの場・交流の場としての役割を担います。 	◆玄海国定公園に指定された海岸部
	④自然環境ゾーン（山） <ul style="list-style-type: none"> ▶ 主に森林の保全等を目的とした区域に指定します。 ▶ 都市環境を支える豊かな自然として、防災等の観点からも保全を図るとともに、市民および観光客の癒しの場・交流の場としての役割を担います。 	◆市街地ゾーンを取り囲む山地
	⑤産業ゾーン <ul style="list-style-type: none"> ▶ 伊万里港湾部の工業団地一体に指定します。 ▶ 主要産業の集積地として機能充実及び維持を促進します。 	◆港湾部の工業団地

(2) 拠点

⇒効率的・効果的なまちづくりを推進するためにも、「ゾーン」内でも特に活動の中心や地域の中核となる場を「拠点」として設定します。

伊万里市の中心市街地、周辺地域の旧来の生活中心の場、観光・交流の場、産業活動の場などを中心に、4つの拠点を設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
生活圏における拠点	①中心拠点 ▶ 広域的な圏域を持つ行政、商業、観光、医療等の様々なサービス機能や観光・交流資源等が集積し、市民や来訪者で賑わう「伊万里の顔」としての役割を担います。 ▶ 伊万里市全体の活力をけん引する「伊万里の顔」として、様々な都市機能が周辺部に拡散することなくまとまって集積するコンパクトな市街地形成を目指します。	◆市街地ゾーンのうち、伊万里駅を中心とした区域（中心市街地）
	②地域生活拠点 ▶ 身近な生活需要に対応した、地域生活の中心の場としての役割を担います。 ▶ 行政、公共交通、近隣商業等の身近な生活サービス機能の集積、 <u>地域特性の活用</u> により地域生活拠点の維持を図り、 <u>周辺の集落での生活も支える地域生活の中心の場の形成</u> を目指します。	◆各地域の拠点
	③景観・観光・交流拠点 ▶ 各景観・観光振興ゾーンにおける中心的役割の場所に位置し、県内外からの来訪者へのもてなしの場としての役割を担います。 ▶ <u>景観保全や観光情報提供をはじめ地域内外の景観観光交流を促す場づくり</u> など、市内観光発展による地域振興を目指します。	◆市街地ゾーン、大川内山、道の駅周辺、いまり夢みさき公園等を含む一帯
	④産業拠点 ▶ 本市を代表する産業の拠点として、また高速交通体系との連携による新たな産業拠点として、地域活力の向上に重要な役割を担います。 ▶ 高速交通体系の結節点の強化とともに、利便性を生かした本市流通産業、業務機能の拠点形成により、優先的に産業集積を図り、市内産業の振興を目指します。	◆伊万里港 ◆臨港部の工業団地 ◆新工業団地（予定）

(3) 軸

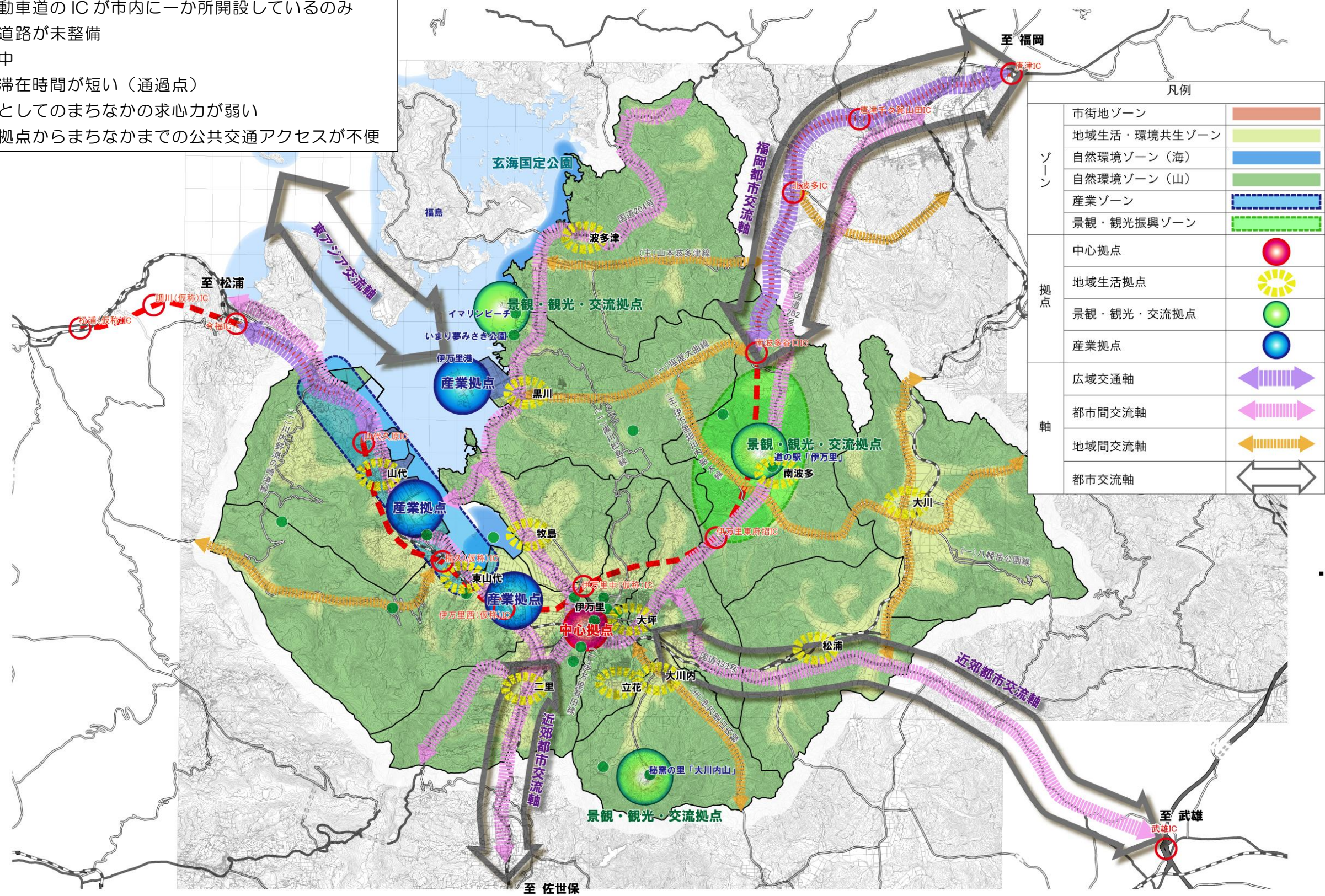
⇒広域交通や都市間交通、地域内交通などの交通網の整備は、地域間の交流や観光を通しての交流など、まちづくりに寄与することが期待できることから、ネットワークや交流を担う線形、動線を「軸」として設定します。

市内外の様々な都市活動の場を結ぶ幹線道路や、都市環境の向上に資する河川、来訪者の観光動線等を中心に、8つの軸を設定します。

	名称及び機能	配置イメージ
都市軸	①広域交通軸 ▶ 本市と福岡都市圏とを結びつけ、広域的な交流を促す役割を担います。	◆西九州自動車道 ◆鉄道
	②都市間交通軸 ▶ 広域交通軸の機能を補完し、本市と周辺市町の交流を促す役割を担います。	◆国道 202 号 ◆国道 204 号 ◆国道 498 号 ◆鉄道
	③地域間交通軸 ▶ 都市中心拠点、地域生活拠点、観光・交流拠点等様々な拠点を結びつけ、日常生活や観光・交流の利便性を高める役割を担います。	◆各種県道 ◆鉄道
地域軸	④河川軸 ▶ 市民の身近な憩いの場として、また、自然や歴史を巡ることのできる動線としての役割を担います。	◆伊万里川など
交流軸	⑤観光・交流軸 ▶ 本市の景観・観光資源をネットワークした、主要な観光周遊ルートとして、本市の観光振興の主軸としての役割を担います。	◆各 IC を起点とした市内及び広域観光周遊ルート
	★周遊起点 ▶ 福岡都市圏からの来訪者の観光ルートの起点となる地域として重要な、情報発信などのもてなしの場としての役割を担います。	◆伊万里中（仮称）IC、南波多谷口 IC および伊万里東府招 IC 周辺
	⑥東アジア交流軸 ▶ 伊万里港の国際物流港として機能強化を促進し、東アジア諸国との人・物・情報など多面的な交流の広がりによる産業や経済活動の活性化を図る主軸としての役割を担います。	◆伊万里港から東アジア
	⑦福岡都市圏交流軸 ▶ 西九州自動車道の完成に伴い、産業や生活、文化などの様々な分野における福岡都市圏との交流強化の役割を担います。	◆西九州自動車道
	⑧近郊都市交流軸 ▶ 近郊都市との人や物の交流の円滑化を図る役割を担います。	◆国道 202 号 ◆国道 204 号 ◆国道 498 号

●現在の都市構造

- 西九州自動車道のICが市内に一か所開設しているのみ
- アクセス道路が未整備
- 港湾整備中
- 観光客の滞在時間が短い（通過点）
- 中心拠点としてのまちなかの求心力が弱い
- 地域生活拠点からまちなかまでの公共交通アクセスが不便



● 将来の目指すべき都市構造

- 西九州自動車道が全線開通、域内ネットワークも完備
- 新たな産業拠点が形成
- 伊万里及び西九州北部の観光拠点（周遊起点）として確立し、市内及び広域観光周遊ルートも確立し、滞在時間、消費額も増加
- 中心拠点としてのまちなかも賑わっている
- 地域生活拠点での暮らしも便利 など

